



通信



第 20 号

2012 年 9 月 20 日発行  
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部  
アウトリチ・センター

オープニングは全員演奏による宮川彬良作曲、吉田梨絵編曲（ゆうがたクインテット）。皆さんの楽器（トロンボーン二本、トランペット、フルート、チェロ、ピアノ）と元気いっぱい（の歌（四名）による華やかな幕開けです。

子どものための  
コンサート・シリーズ

七夕コンサート

「子どものためのコンサート・シリーズ」第三十四回「子どものための七夕コンサート



く音で心をつなげよう」を七月七日（土）、本学講堂で開催しました（第一

部 十一時開演、第二部 十五時半開演、来場者数・第一部 四百四十三名／第二部 百九十八名、計六百四十一名。

出演者は「音楽によるアウトリチ（実習）」履修の四回生十一名（ピアノ・熊谷瑞季、大谷梨恵、祐成麻奈未、声楽・初田朋美、松田彩起子、米澤典子、大谷梨恵、フルート・濱悠理子、チェロ・湯浅亜佑美、トロンボーン・藤井美波、鶴房采花、ミュージッククリエーション・吉田梨絵、トランペット・祐成麻奈未）。

今回の七夕コンサートでは、織姫様と彦星様をイメージして、



する人と、心一つにして音楽を作ることの楽しさやすばらしさがお客様にも伝わればと願って、「音で心をつなげよう」をテーマとし、ソロでの演奏は行わずに、二人、三人、または全員での演奏という編成で全プログラムを組みました。

デュオでの演奏を中心にプログラムを考へました。一緒に演奏

次は、ゆったりとした二曲です。メンデルスゾーン作曲、シユテックメスト編曲（「歌の翼に」による幻想曲）をフルートとピアノで、サン・サーンスの組曲《動物の謝肉祭》より（白鳥）をチェロとピアノで演奏。それぞれの楽器について特徴や奏法を紹介したり、《白鳥》の曲目紹介で星座の話をする際、舞台左上方の壁にプロジェクターで白鳥座の画像を映し出したリ、子どもたちの興味を引く工夫をしました。

ここで、がらっと雰囲気を変えてピアノ連弾によるブラーム

ス（ハンガリー舞曲 第五番）。音の強弱や緩急の変化をたっぷりとつけて、「織姫様と彦星様のように仲が良くて息ぴったり」の演奏をお届けしました。

次は、これまでに出来た三つの楽器、フルートとチェロとピアノによるトリオで、ジャン・バティスト・フォーレ作曲、岩船雅一編曲（棕櫚の枝（枝の主日のアンセム）。管楽器・弦楽器・鍵盤楽器という楽器の違いを分かりやすく説明した上で、「三つの全然違う楽器ですが、一緒に演奏すると相性はばっちり



り、厚みのある音楽になります」と聞き所を子どもたちに伝ええます。演奏者も

息の合ったアンサンブルをめざして、暗譜で演奏しました。



続いては、ロッシンニ作曲（猫の愉快な二重唱）。猫耳を付けた

二人が、一人は舞台上、一人は客席の後方から登場して、二匹の猫ちゃんがお互いを探しているというお話し仕立ての解釈で演奏。客席の間を通過してお客様の近くで歌うことで、子どもたちも迫力を感じてくれたことと思います。猫ちゃんたちも無事に会うことが出来て、ハッピーエンド。

ここで、「子どものためのコンサート・シリーズ」が第三十四回を迎え、来場者数二万人を達

成したことを発表。記念すべき二万人目のお友達には花束、前後十名のお友達には本校音楽学部オリジナルグッズのボトルとメモ帳をプレゼントしました。



さらに、コンサートに来てくれた子どもたち全員に、記念として学生がデザイン

したオリジナル・シールをプレゼントするとアナウンス。

一方、第二部ではこの部分でワークショップの作品発表を行いました。これは今回が初めての試みで、「十名程度」の募集に対して五倍以上の応募を頂いたので、止むなく抽選で参加するお友達を決めたとお話して、外れた子どもたちへの心遣いとし

ました。第二部が始まる前に、子ども十三人と学生四人が集まって作った作品は「天の川の七夕」（ワークショップについては後掲の別記事参照）。たなばたさ

まの旋律のモチーフ（ドファソラ）をトーン・チャイムで鳴らしたり、トライ・アングルを使ったり、声や体を使った振り付けを考えて表現したり、様々な発想を織り込んだ作品となりました。ジャンベを拳骨で力一杯叩いて痛そうにしている低学年の男の子や、トーン・チャイムを鳴らすタイミングを真剣な顔



で量っている女の子の子どもなど、皆一生懸命に演奏してくれました。



続いて、第一部・第二部とも、会場全体でアクテイビティを行いました。とで、会場に一体感が生まれま



のが印象的でした。

会場全体が盛り上がった後は、

総皖一作曲「たなばたさま」。一番はピアノ伴奏、二番はトロンボーンやトランペット、フルー

トやチェロも入ったの伴奏です

(編曲・吉田梨絵)。会場の皆さんにも参加してもらって、一

緒に大合唱。みんなで声を合わせ

て歌うことで、今回のテーマ「音

で心をつなげよう」を実感して

もらえたことと思います。

終演後には、ピアノ、トーン・

チャイム、フルート、ウインド・

チャイムの体験コーナーにたく

さんの子どもたちが並んで、

次々と楽器に挑戦しました。

今回はワークショップを組み

入れたり、記念オリジナル・シ

ールを作ったり、今までにない

お客様をはじめ、支えてくれた学生スタッフの皆さん、アウトリーチ・センターの寺澤彩さん、三上昌子さん、藤野直さん、ワークショップを率いてくれた東瑛子さん、そして津上智実先生には感謝の気持ちでいっぱい



た。(祐成麻奈末・記)

いました。まず会場を(椅子の手摺に貼ったテープの色別に)春夏秋冬の四つのチームに分けて、ピンク、緑、黄色、青のドレスを着た出演者が各グループをリーダーとして率います。グループ毎に季節にちなんだ言葉や、その言葉から思い浮かぶ擬音語などを子どもたちから募り、それをグループ・リーダーが八小節のリズムにまとめます。例えば、夏なら「せくみミンミンせみミンミン♪」といった具合です。最後に春夏秋冬と繋げて、全員で一つの作品とするこ

うアリアですが、今回はトロンボーン・デュオの特別バージョン(編曲・山口景子)です。続いて、モーツアルトのオペラ《魔笛》より「パパパの二重唱」。これも特別に四人で歌い、

パパーノ二人とパパーナ二人による楽しい愛の二重唱としました。

最後は、全員による演奏で下



# 子どものための七夕コンサート 音楽ワークショップを担って

東 瑛子（音楽によるアウトリーチ）  
（要員）

七月七日（土）、「子どものための七夕コンサート」第二部に先立ち、十四時から音楽館合奏室にて一時間のワークショップを行いました。子どもたちのアイデアを盛り込んだオリジナル作品の創作と発表を目的としたもので、「子どものための七夕コンサート」としては初めての試みです。参加したのは、抽選で選ばれた小学校一年生から六年生までの子ども十三名と、サ



らを統括するメイン・リーダーという役割です。

ブ・リーダーを務める学生四名（藤井美波、松田彩起子、米澤典子、吉田梨絵）。

まずは自己紹介を兼ねたリズム遊び。全員で簡単なリズムの上



に自分の名前と仲間の名前を乗せていきます。始めは聞き取れないほど小さな声だった子どもも、お互いの名前を呼び合っている内に、少しずつ声が大きくなっていきました。

緊張をほぐした後、七夕に因んだ作品を皆で作ろうと呼びかけます。（たなばたさま）冒頭の四音（ドファソラ）から成るピアノのシークエンス（担当・吉田梨絵）の上に、楽器や声を使って、どんな音を加えるかを考えます。星がきらきらと輝く様子を「鉄琴のような音」と表現した子どもの提案を受けてトライ・アングルで表したり、「シュー」という音を切れ目なく続けることで星が流れる様を表したり、そこにジャンベやトーン・



チャイムも加わって、四拍子四小節のリフが完成。このリフを繰り返して、Aセクションとします。

次に参加

者を四グループに分けて、サブ・リーダーを中心にBセクションの音楽を作ります。ここでの約束事は七拍子（七月七日の七夕だから）の上に、声や身体を使って自由に音を遊ばせること。各グループは、七夕から連想する「空」「星」といった言葉や身振りを考えて、七拍子に乗せていきます。意見がまとまらなかったり、停滞してしまったりする場合もあり



ましたが、毎にリズムや振り音の異なる音楽が生まれました。それら

を繋ぎ合わせてBセクションとします。



最後に、これらを繋いで三部形式（A・B・A）

にまとめます。子どもが（天の川の七夕）と命名した作品は、コンサート第二部の半ば、参加した子どもたちが客席から舞台上がって、学生と共に発表を行いました。



今回の試みで、リーダーに求められる柔軟性や即興性、子どもたちとリーダーとの関係のあり方等、多

くの課題が改めて浮き彫りになりました。今後、よりよい実践を追求していきたいと思えます。

## 子どものための

### コンサート・シリーズ 二万人目の入場者を迎えて

津上 智実(アウトリーチ・センター長)

二〇〇二年七月に開始した「子どものためのコンサート・シリーズ」は、今年(二〇一二年)夏の七タコンサートで第三十四回を迎え、累計入場者数が二万人を突破しました。

「二万人達成おめでとう」をどのようにお祝いするか、アウトリーチの履修生やセンター・スタッフ、音楽学部事務室と春から相談して準備を進めました。まず、音楽学部オリジナル・グッズ(ポトルとトレニン グ・ウェア型のメモ帳)を十組用意して、それを学生がきれいにラッピングし、二万人目とその後十名の子どもたちにプレゼントすることになりました。二万人目の子どもにはお祝いの花束も用意しました。

では、残りの子どもたちはどうするのか、ただ指をくわえて見ているだけでいいのかを協議

し、来場の子どもたち全員に記念のオリジナル・シールを学生がデザインして渡すことになりました。



昨年までの累計入場者数が一九、八四人ですから、七タコンサート第一部で二万人達成となることは間違いありません。そこで、第一部の開場と同時にアウトリーチ・センターのスタッフがデジタル・カウンターの手に入場者数を数えて、プログラム手渡し担当の学生に、ど

の子どもが二万人目かを指示します。プログラムの裏には星のマークが貼付けてあります。二万人目用は星三個、前後賞は星一個です。

こうして無事に第一部の半ばで子どもたち十人余り(兄弟が一緒に出てきたりしたため)が舞台上上がって、出演の学生たちからお祝いを受け取りました。大きな拍手に包まれて、子どもたちの顔が輝きます。

シリーズ開始から十年余、コツコツと積み上げてきた蓄積の成果が花開いた一瞬でした。



「子どものためのコンサート・シリーズ」入場者数一覧(2012年8月現在)

コンサート	年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	小計
七タ	(人)	196	256	448	568	780	965	723	814	602	729	641	6722
スペシャル オルガン	or (人)	280	335	336	262	197	365	328	226	330	137	—	2796
2ndスペシャル	(人)	—	311	—	—	—	550	352	—	—	—	—	1213
クリスマス	(人)	662	1198	1229	1138	1277	1111	753	812	780	794	実施予定	9754
小計	(人)	1138	2100	2013	1968	2254	2991	2156	1852	1712	1660	641	20485

## 第三回 音で遊ぼう！ 子どものための

### 音楽作りワークショップ

津上 智実(アウトリーチ・センター長)

十月二十日(土) 十時から十六時まで、「第三回 音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」を音楽学部二号館ホールで開催します。

これは二〇〇七年秋の第一回、二〇〇八年夏の第二回(下記の囲み記事参照)に続くもので、指導は英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リダーシップ専攻の若い音楽家二名の予定です。当日は通訳付きで、本学音楽学部の学生たちがサブ・リーダーとして子どもたちを補助します。対象は小学校三年生以上の四十名で、先着順の公募で参加者を募集しています。これに先立ち、サブ・リーダーとなる学生たちのワークショップ研修を十月十五日(火)から十九日(金)までの四日間行

います。子どもたちと意思疎通するためのアイス・ブレイキングの手法や、音楽的なアイデアの引き出し方、即興や柔軟な判断力を身につける方法を学んで、身につける貴重な機会です。参加学生は「音楽によるアウトリーチ」履修の三・四年生と、三大学連携の共通科目「ミュージック・コミュニケーション講座」受講の一年生から四年生までです。

学生にとって、土曜日の子どもたちとのワークショップは、研修で学んだことを実地に試してみる希有の機会です。音や体を使って自由にアイデアを出し合い、みんなで音楽作りを楽しむことがどこまでできるか、大きなチャレンジとなることでしょう。

子どもたちと学生が力を合わせて作った作品を、土曜日の最後の三十分(十五時半から十六時)で発表する予定です。どうぞご期待下さい。

※「音楽作りワークショップ」参加ご希望の方は、アウトリーチ・センター・ホームページをご覧ください。  
<http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

### 「音楽で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」実施の歩み

第1回 2007年11月23日(金・祝) 10時～17時 音楽館ホール

指導: ショーン・グレゴリー (英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リダーシップ・コース・ディレクター)

参加人数: 子ども 22人 + 学生 17人

第2回 2008年7月26日(土) 10時～17時 音楽館ホール

指導: ショーン・グレゴリー (英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リダーシップ・コース・ディレクター)

参加人数: 子ども 13人 + 学生 11人

## 子どものための

### クリスマス・コンサート

子どものためのコンサート・シリーズ第三十五回「子どものためのクリスマス・コンサート」を、十二月十五日(土)に本学講堂で開催します。昨年に引き続いて、今年もオーディションで選ばれた卒業生グループが出演します。

今年のクリスマス・コンサートは、「音楽によるアウトリーチ」四期生から生まれたグループ「ピッコラ・ムジカ Piccola Musica」を中心としたメンバーが集結。ピアノ専攻の佐々木茉悠、金沢彩子、有澤弥生、フルート専攻の中嶋みのり、声楽専攻の南香代子、ヴァイオリン専攻の東瑛子、そしてチェロ専攻の藤原克匡(賛助出演)という顔ぶれで、皆様に魅力あるプログラムをお届けします。



## 卒業生の活動

### 大学卒業後の演奏活動

アウトリーチ八期生

アンサンブル ふるーる

私たちは、音楽学部を卒業して三年目の「アンサンブルふるーる」です。

卒業の年に、「音楽によるアウトリーチ」を履修した三人で結成しました(ピアノ・小幡文香・岡崎典子、フルート・木村友香)。グループ名の「ふるーる」はフランス語で「花」の意。私たちが音楽を届けることで、「聴いて下さる方々に元気を与え、お花のように一人でも多くの笑顔が咲けば」という願いか



ら、「アンサンブルふるーる」と命名しました。

現在、「アンサンブルふるーる」は高齢者施設を始め、病院、幼稚園、博物館、レストラン等、様々な場所で演奏活動を行っています。場所によって聴衆の年齢層が異なるため、主な年齢層やリクエスト曲を事前に聞いて喜んで頂けるプログラム作りを心掛けています。

具体例として、二〇一二年七月一日の有料老人ホーム「グッドタイムリビング神戸垂水」での演奏会「懐かしの曲を皆様と一緒に♪」(対象：九十歳前後、三十名程度)を挙げてみましょう。

まず、モーツァルト(アイネ・クライネ・ナハトムジーク)とメンデルスゾーン作曲/シユエツクメスト編曲《歌の翼に》による幻想曲を演奏し、次に時代劇のテーマ・ソングによる《お楽しみメドレー》。何の曲が出て来るかは聞いてのお楽しみ。皆さん、思い出して曲当てするの

が楽しそうでした。続いて、サン＝サーンス《動物の謝肉祭》から「ライオン」「白鳥」「カメ」の三曲を使って動物

当てクイズです。動物の写真を用意し、曲の聞き所を伝えた上



で、どの動物の曲かを当てて頂きました。

次は、海沼実(みかんの花咲く丘)にによるリズム遊びです。二つのグループに分かれて二つのリズムをそれぞれ練習し、両者を合わせて打っている時にバツクで「みかんの花咲く丘」を演奏し、合奏を楽しんで頂きました。

次に演奏した中山晋平作曲《ゴンドラの唄》と《カチューシャの唄》、岡野貞一作曲《故郷》は、事前にリクエストがあった中から選んだもので、歌詞カードを配って皆さんと一緒に歌いました。

最後に、ビゼー《カルメン・メドレー》を出演者全員で演奏。私たちはフルート一人とピアノ二人というグループ構成のため、

演奏形態が独奏かピアノ連弾に限られ勝ちです。そこで毎回、試行錯誤でフルートとピアノ連弾の形に編曲して、「アンサンブルふるーる」ならではのオリジナル版を作り上げています。

このようなプログラム作りによって、聴衆が聴くだけでなく、一緒に参加して楽しんでもらえるように常に心掛けています。「いかに惹きつけ飽きることなく楽しんでもらうか」。在学時にアウトリーチの授業で学んだように、演奏側だけでなく、聴衆側の立場に立って考えることが、よいコンサート作りには欠かせないと毎回痛感しています。

私たち三人は、大学事務や後進の指導にあたる傍らソロ活動も行うなど、それぞれの毎日を過ごしています。そんな忙しい中ですが、「アンサンブルちよちよ」や「アンサンブルたまてばこ」の先輩方のように、もっと多くの人に喜んでもらえるようになるのが私たちの大きな目標でもあるので、一つ一つの出会いを大切に、今後も頑張っていきたいです。

アンサンブルふるーる ホームページ  
<http://ensemblefour.web.fc2.com/index.html>

## ♪ 今後の予定 ♪

### ◎アウトリーチ

2012年10月3日(水) 国立病院機構 兵庫中央病院  
2012年10月12日(金) 大阪市立総合医療センター  
2012年10月27日(土) 野木病院  
2012年11月13日(火) 西宮市立春風幼稚園  
2012年11月15日(木) 神戸市立医療センター中央市民病院  
2012年12月18日(火) 雲雀丘学園小学校  
2013年 国立病院機構 刀根山病院(日程調整中)

### ◎ワークショップ

「第3回 音で遊ぼう! 子どものための音楽作りワークショップ」  
日時: 2012年10月20日(土) 10:00~16:00  
場所: 音楽学部二号館ホール  
講師: 英国ロンドン市立ギルドホール音楽院 リーダーシップ専攻生  
対象: 小学校3年生以上 先着40名  
応募方法: アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

### ◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第35回 子どものためのクリスマス・コンサート」  
日時: 2012年12月15日(土)  
第1部 11:00~(年齢制限なし、未就学児対象)  
第2部 15:30~(小学生以上対象、未就学児入場不可)  
会場: 神戸女学院講堂  
出演: Piccola Musica  
佐々木茉悠、金沢彩子、有澤弥生(ピアノ)、中嶋みのり(フルート)  
南香代子(声楽)、東瑛子(ヴァイオリン)、藤原克匡(チェロ、賛助出演)  
入場料: 大人500円、子ども(19歳以下)300円  
応募方法: アウトリーチ・センターのホームページにて後日掲載いたします。

## 音楽をお届けします!!

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。  
大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場ですてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪ **小中学校へ** : 総合的学習支援プログラムとして、  
子どものための楽しい体験学習を!  
♪ **病院や美術館へ** : 催しの趣旨に沿った手作りの音楽  
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月~金 10:00~15:00)  
〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551  
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

## 編集後記

学生がよく頑張りました! 後期もできるだけサポートをしていきます。(寺澤)  
2万人超、たくさんのお客さまをお迎えすることができて感激です!(三上)  
きらきらまぶしい学生さんたちに負けぬよう、私も元気に頑張ります!(藤野)  
今年の履修生の意識の高さには目を見張ります。後期の実習が楽しみです。(津上)